

課題④

オーディション対象：〇〇代大学教授

教授を演じてください。

設定：大学教授

場所：研究室

ある未知の物質について、教授と部下の研究員が話している。教授は、長い間不妊に悩んでいる知り合いの女性が妊娠したという知らせを受け、うれしそである。

教授「いやあ、今朝受けた検診で、妊娠がわかったらしいんだ。」

部下「それは、おめでたいですね！」

教授「彼女、10年近くも不妊治療を受けていてねえ。医者からは、染色体異常の可能性も言われていたみたいだから。このところ体調を崩して、しばらく治療を受けていなかったらしいんだが、突然自然妊娠したって。」

そのとき、教授が何かに気づいたかのように、急に血相を変えてモニターの前に駆け寄る。部下を近くに呼び寄せ、モニターを見ながら話しかける教授。

教授「あくまでも、仮にだよ。今回、彼女の身体に入った物質が、染色体に何らかの

影響を及ぼして、急に自然妊娠できたのだとしたら…？」

部下「いったい、急にどうしたんですか？」

教授「もともとヒトの受精は、ウイルスが細胞内に入り込むときに用いる手法を、太古の昔にヒトが子孫を残す手段として利用したと言われているんだ。もし、この物質にその機能があったのだとしたら？」

部下「…？」

教授「つまり、ヒトの細胞内に入り込むとき、性別の違いを判別する必要があるというんだよ。」

部下「例の物質の話ですか？」

教授「その目的が、妊娠させやすくすることだとしたら？」

部下「でも、なぜそんな物質が？」

教授「そこが、よく分からないところなんだがね。人類には不妊の解決が必要だと、

AIがそう判断して、妊娠させやすくする設計図を描いていたとしたら…。」

部下「…。」